

# 障がい者サッカー HAND BOOK



審判編



公益財団法人日本サッカー協会



## はじめに

障がい者サッカーとは、過去、JFAとしてはじめから組織的に取り組んできたわけではありませんでした。障がい者スポーツが、一般のスポーツと異なり、医療の面からとらえられ厚生労働省管轄であったこと、またJFAとして組織同士の関係の基盤ができていなかったこと等の要因で、向き合いにくい状況がありました。

そのような中で、スポーツ基本法に障がい者のスポーツ参加が言及されたこと、スポーツ庁の設置が決まり、文部科学省が障がい者スポーツも管轄するようになったこと、そして、2020東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、日本でパラリンピックが開催されたこと等、様々な社会的背景の変化がありました。

また、海外ではすでに、サッカー協会が障がい者サッカーに取り組む先進的な事例が存在していました。

一方、JFAが直接関わることはませんでしたが、これまで国内で障がい者サッカーは楽しまれ、全国で様々な連携や活動が行われていました。

JFAは2014年5月に「JFAグラスルーツ宣言」を発表し、“サッカーをもっとみんなのものへ”、年齢、性別、障がい、人種などに関わりなく、誰もが、いつでも、どこでも、身近でサッカーにアクセスできる環境の整備に取り組むことを明言しました。



## CONTENTS



サッカーの持つすばらしさをもっともっと多くの人と分かち合い、はぐくみたい。

2016年4月1日、障がい者サッカー競技の7団体を統括する組織、一般社団法人日本障がい者サッカー連盟(JIFF)を設立しました。7つの団体がより良く連係すること、そしてJFAの持つ資源、なによりもサッカーファミリーにつなげ、発展を推進する力としたいと考えています。

サッカーファミリーの大切な仲間である審判の皆さん、ぜひ審判を入口として、障がい者サッカーに触れてください。広くサッカーを通じて、多方面から障がい者サッカーと連携し、サッカーファミリー全体で、サッカーをもっともっとみんなのものに、豊かにしていきましょう！

はじめに ..... 2

01 アンスティ  
サッカー ..... 4  
(精神障がい)

02 CP  
サッカー ..... 6  
(脳性まひ)

03 ソーシャル  
フットボール ..... 8  
(精神障がい)

04 知的障がい者  
サッカー ..... 10

05 電動車椅子  
サッカー ..... 12

06 スライнд  
サッカー® ..... 14  
(視覚障がい)

07 ろう者(デフ)  
サッカー ..... 18  
(聴覚障がい)

日本障がい者サッカー連盟 ..... 20

UCDAフォント

みんなの文字®

UDフォントに、科学的基準。  
を使用しています。

# 01 アンプティサッカー (切断障がい)

上肢または下肢の切断障がいを持った人々のサッカーです。



うため、足や手に障がいを持つ人々にとっては最も気楽に楽しめるサッカーです。

## ルール

【人数】 7人

【試合時間】 25分ハーフ(ハーフタイム10分)

【ピッチサイズ】 60m×40m

【ゴールサイズ】 5.0m×2.15m (少年サッカ用ゴール)

### 【その他】

- フィールドプレーヤーは移動のためにクラッチを使用するが、このクラッチをボール操作に使用することはできない。故意に触れた場合はハンドとなる。
- フィールドプレーヤーは転倒した状態でボールを蹴ることはできない。
- ゴールエリアなし、オフサイドなし、ゴールキーパー以外は自由交代
- スローインではなくキックインとなる。
- ゴールキーパーはペナルティエリアから出ることができない。



## 対象者

フィールドプレーヤーは下肢切断者もしくは下肢に障害のある者

ゴールキーパーは上肢切断者もしくは上肢に障害のある者

【クラス分け】 なし

## 国内大会

全国大会 (日本アンプティサッカー選手権大会／レオピン杯 copa amptee)





## アンスティサッカーの審判

選手達にとってこのクラッチは腕と同じ扱い。プレー中このクラッチで故意にボールを触れると「ハンド」となります。

### 留意点

クラッチ（杖）でボールを扱うと反則となります。当たっただけでは反則としないため、不必要に幅を出していないか、クラッチの幅を広げて相手競技者を抑えていないかを判断します。また、切断している足でボールを扱ったり、地面に着いてプレーをすると反則となるため、切断側の足を不正に用いていないかを見ます。

### 大会での審判条件

JFA サッカーハンディサッカーリーグ審判員4級以上の方（できれば3級以上で事前にJAFA審判講習会を受講）

### 各競技独自の審判制度・講習会

策定中（JAFA所属審判員4名には暫定的に付与）  
審判制度を策定する中で2020年1月に第1回審判講習会を関東地域対象に実施

### 大会時の事前審判研修の有無

■大会前研修：あり

- ①チーム練習に参加し競技観察（参加可能者のみ）  
②競技規則及び競技規則説明資料配布

■当日研修：なし

■その他の対応：大会時は第四の審判員から割当する。

### 大会等の審判状況

- 日本アンスティサッカー協会所属審判員及びJFA審判ライセンス保有者で競技に興味を持つ方（現状十数名程度）に依頼している状況
- 大阪での全国大会は三重県・大阪府サッカー協会に派遣依頼



特定非営利活動法人 日本アンスティサッカー協会

〒105-0023 東京都港区芝浦1-2-1 シーパンスN館 兼松株式会社 19階

Eメール [support@j-afa.jp](mailto:support@j-afa.jp) 公式WEBサイト <http://j-afa.jp>

公式Facebook <https://www.facebook.com/JapanAmputeeFootball>

公式ツイッター <https://twitter.com/jamputees>

公式Instagram <https://www.instagram.com/jamputees/>

YouTube公式チャンネル <https://www.youtube.com/channel/UCbHz0qKvXvQw4sby9R4hFVw>

### 半根 浩次さんに聞きました！

アンスティサッカーの審判に取り組むようになったきっかけは？

東日本大震災の関係で知り合った人にアンスティサッカーチームの関係者がいて、私がサッカーの審判をやっていたことから手伝ってほしいと頼まれ、アンスティサッカーの審判活動を開始しました。アンスティサッカーの審判活動を始めるにあたり、アンスティサッカーの体験を行い、また選手と話をすることで、手足を失ったことでできなくなったサッカーをもう一度できるようになった喜びを手助けできればと思って取り組むようになりました。

審判を通して感じるアンスティサッカーの魅力について一言！

アンスティサッカーは通常のサッカーの競技規則とほぼ同じであり、サッカーを知っている人ならアンスティサッカーの競技規則を知らないてもわかること、また、手足を失ったハンディがありながら、激しくも楽しそうにサッカーを行っているところが、魅力だと考えています。

# 02 CPサッカー (脳性まひ)

比較的軽度の脳性麻痺選手のために考案された7人制サッカーです。



CPサッカー（脳性まひ者7人制サッカー）は、比較的軽度の脳性まひ選手がプレーできるように考案された7人制サッカーで、立った状態で行う脳性まひスポーツの中では唯一の団体競技です。フィールドが11人制サッカーより小さく、オフサイドがない、片手で下から投げるスローインが認められていること以外は、11人制サッカーとほぼ同じ

ルールで行われます。プレーヤーの障がいは人それぞれのため、お互いの障がいを理解したプレーが求められ、チームワークがとても重要なスポーツです。

## ルール

【人数】7人

【試合時間】30分ハーフ(ハーフタイム5分)

【ピッチサイズ】70m×50m

【ピッチサイズ】5m×2m

【その他】以下を除いては11人制サッカーと同じルール

● オフサイドなし

● 両手で上からのスローインができない人のために、片手で下からのスローインを認めています。

● 女性の参加は、一部の国際大会や国内大会で認められています。

● 交代は最大3回、最大5名まで

● リスタートのとき、対戦相手のチームの選手は、最低7mはボールから離れる。

## 対象者

脳性まひ、脳卒中、脳外傷など、何らかの原因による脳の損傷によって運動機能障がいがある者（両麻痺、片麻痺、四肢麻痺）で、自力で歩く、走ることができる者（杖の使用は不可）

【クラス分け】競技を公平に行うために、プレーヤーは障がいのタイプや程度により、FT1、FT2、FT3の3つのクラスに区分され、試合中ピッチ内7人の中で、必ずFT1が1人以上、FT3が1人以内の競技者で構成するルールとなります。

## 国内大会

全日本選手権大会



## CP サッカーの審判

基本的にサッカーとルールは変わりませんが、いくつか特別なルールがあります。

### 留意点

CP サッカーは、手足に麻痺がある選手達によって、激しいプレーが展開されます。障がい特性により、正当なボディーコンタクトの結果であっても、コンタクト時の強度によって意図しない転倒につながる場面においては、競技者が十分な受け身が取れない可能性があり、重大なけがにつながる可能性があることへの注意が必要。どのような接触があったのか、どのような転倒の仕方であったのか、結果の重大性を考慮したレフェリングを求められます。

### 大会での審判条件

特に基準を設けていないが、依頼はJFA 審判資格3級以上にしている

### 各競技独自の審判制度・講習会

独自制度なし

### 大会時の事前審判研修の有無

■ 大会前研修：なし ■ 当日研修：あり  
→ 内容：ルールの確認、事例の共有

### 大会等の審判状況

- ・全国大会レベルでは開催地の都道府県サッカー協会に派遣協力依頼
- ・練習試合等では、登録チームの有資格者、協会関係者、その知人等へ依頼

### 梅本 雅史さんに聞きました！

CP サッカーの審判に取り組むようになったきっかけは？

私がこの競技の審判に取り組むようになったきっかけは、脳性まひ者7人制サッカー（CP サッカー）全国大会が、毎年、私の地元の岐阜市、長良川球技メドウで開催されているご縁で、ここ10数年、審判員として大会に参加させていただいている。

審判を通して感じるCP サッカーの魅力について一言！

参加当初は、審判員として脳性まひに対する知識もなく、判定に戸惑う場面もありましたが、回を重ねるごとに、選手の皆さんのが、サッカーに対する理解度が高く、技術・スピードもあり、そして何よりも障がいをものともせず、情熱をもってサッカーを楽しんでおられることがよくわかりました。ただし、脳性まひの特性から、減速が間に合わず、故意ではない接触が生じることが少なくありません。審判団としては、選手の皆さんのがケガで大会を棒に振るようなことがないよう、細心の注意を払い、大会運営をサポートしたいと考えています。



一般社団法人 日本CP サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス 一般社団法人日本障がい者サッカー連盟内

Eメール [info@jcpfa.jp](mailto:info@jcpfa.jp) 公式WEBサイト <https://jcpfa.jp>

公式Facebook <https://www.facebook.com/jcpfa/>

公式ツイッター [https://twitter.com/JCPFA\\_cp\\_soccer](https://twitter.com/JCPFA_cp_soccer)

# 03 ソーシャル フットボール(精神障がい)

精神疾患・精神障がいのある人を対象としたサッカーです。



©JSFA

「ソーシャルフットボール」の名称は、イタリアで行われている calciosociale (英訳 socialfootball) に由来します。年齢・性別・人種・貧困・家庭環境・障がいなど、あらゆる違いを超えて社会連帯を目指したフットボールムーブメントです。2011年に日本の精神障がい者フットサルチームが初の海外遠征をした際に calciosociale に触れ、その理念に敬意を表して協会名としました。フットボールを通して、人との信頼関係を築き、自信を培い、夢や希望を実現する力を獲得できると考えます。精神障がい者のフットボールを推進して行くことでそれらを実現するため、日本ソーシャルフットボール協会を設立しました。現在はルールを一部修正したフットサルとして、各地で普及が進んでいます。

## ルール

【人数】 7人

基本的にはFIFAのフットサル競技規則に準拠するが以下の特別ルールを採用している。

- 競技形態はフットサル
- 女子選手を含む場合に限り、最大6人がコートに立つことができる。
- 女子が2人以上でも、最大6人で試合を行う。
- 試合時間、ピッチの広さは大会ごとに規定

## 対象者

全国大会参加資格は以下の通り

- 1) 以下の要件全てを満たし、スポーツマンシップに則って大会に参加できる者
- 2) 精神疾患 / 精神障がいのため医療機関で継続的に治療を受けている者
- 3) WHOの国際診断基準「ICD-10 精神およ

び行動の障害」のうち、F2またはF3に該当する者を中心とするが、他の精神疾患 / 精神障がいも妨げない

4) 毎年4月1日現在13歳以上の精神障がい者で以下ア～ウのいずれかを提示できる者

ア) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条の規定により、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者

イ) 障害者自立支援法の自立支援医療制度を利用している者

ウ) 精神科を継続的に受診しており、主治医より通院証明書の発行が得られる者

【クラス分け】なし

## 国内大会

全国大会

地域選抜大会



## ソーシャルフットボールの審判

基本的にフットサルとルールは変わりません。

### 留意点

フットサル競技では、基本的な競技上のルールは同じで、競技者が使用する用具も違いはありません。だからこそ、想定していないアクシデントが起きたとき、冷静に、適切なタイミングでプレーを停止させ、普段どおりのコミュニケーションで選手に対応することを心がけます。対応できない状況になれば、速やかにチーム関係者および運営の皆様から助言（協力）を頂きながら対処します。

### 大会での審判条件

JFA フットサル審判員 4 級以上

### 各競技独自の審判制度・講習会

独自制度なし

### 大会時の事前審判研修の有無

- 大会前研修：なし
- 当日研修：あり  
→ 内容：公式大会に関しては通常通りに（障がい者だから甘くしないよう）
- その他の対応：特別ルールのガイダンス

### 大会等の審判状況

- ・ 全国大会レベルでは開催地の都道府県サッカー協会に派遣協力依頼
- ・ 地域主催の大会では、都道府県サッカー協会への依頼を推奨しているが、都道府県サッカー協会との連携がない地域では、審判資格のない方が行っている場合もある。

### 森 誠二さんに聞きました！

ソーシャルフットボールの審判に取り組むようになったきっかけは？

2019年度より徳島県のフットサル審判員派遣を担当していることもあり、四国で行われているソーシャルフットボールリーグへの審判派遣依頼が私に入ってくるようになったのが最初のきっかけです。自分が審判員を担当する、しないに関わらず審判員を割り当てる責任者としてソーシャルフットボール（フットサル）に関わるようになり、また審判員としても担当するようになりました。

**審判を通して感じるソーシャルフットボールの魅力について一言！**

私は大人から小学生の子供までの様々なカテゴリーで、サッカー・フットサルの審判員として関わっています。それぞれのカテゴリーでの競技の強度や技術レベルは大きく違いを感じますが、ソーシャルフットボール競技においても他のカテゴリーと同様だと思っており、さほど違いを感じることはありません。選手の皆さんには、普段のトレーニングや練習の成果をピッチ上で表現しようと試み、審判員の判定に対してもしっかりと受け入れて頂いていると感じており、選手と審判員が協力して試合をつくることができるのが魅力的なところです。ソーシャルフットボールの競技（事業）において、選手、運営に関わるスタッフの方を含め会場の雰囲気は和やかに感じます。



特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会

〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス一般社団法人日本障がい者サッカー連盟内

Eメール [info@jsfa-official.jp](mailto:info@jsfa-official.jp) 公式WEBサイト <https://jsfa-official.jp>

公式Facebook <https://ja-jp.facebook.com/jsfakokusai2016/>

公式Twitter [https://twitter.com/sf\\_2016japan](https://twitter.com/sf_2016japan)

公式Instagram <https://www.instagram.com/jsfa.2013/>

# 04 知的障がい者 サッカー

知的障がい者がプレーするサッカーです。



日本国内においては約6000名のプレイヤーがあり、それぞれの力量により楽しんでいます。

ルールは皆さんがご存知のFIFA サッカールールと全く同じですが、発達障がいの程度により試合時間が30分ハーフになりました。国際試合などは45分ハーフで戦います。

知的障がい者は「ひたむき」なサッカーをします。いわゆる汚いプレーがほとんどなく、心洗われる爽やかさがあるサッカーです。ぜひ一度ご覧になってみてください。

## ルール

【人数】11人

【試合時間】国際試合は45分ハーフ

【ピッチサイズ】一般的なサイズと同じ

【その他】競技そのものは皆さんが楽しんでいるサッカーと何ら変わりません。コミュニケーションや戦術理解、判断力などの指導に工夫が必要です。

## 対象者

知的障がい者

【クラス分け】なし

## 国内大会

全日本選手権大会

高校生年代の選手権

## 特徴

全国に特別支援学校・学級綱が発達していること、サッカーの面では国体の後に開催される全国障害者スポーツ大会の競技種目となっていることから、全国に広く発達している競技です。国体を契機に取り組みが開始する都道府県も少なくありません。



特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟

〒179-0072 東京都練馬区光が丘2-7-3 Eメール [office@jffid.com](mailto:office@jffid.com)

公式WEBサイト <https://jffid.com> 公式Facebook <https://www.facebook.com/jffid>

公式ツイッター [https://twitter.com/jffid\\_official](https://twitter.com/jffid_official)

Youtube 公式チャンネル <https://www.youtube.com/channel/UC8PduiGH3BJI6krDTEwb3A>



## 知的障がい者サッカーの審判

基本的にサッカーとルールは変わりません。  
選手とのコミュニケーションを、簡潔に、  
わかりやすく、丁寧にとりましょう。

### 留意点

年齢ではなく障がいの程度をみてもらいます。障がいの程度が軽度の1部の試合を担当してもらう審判員には、「いつも担当するサッカーと何ら変わりません」、障がいの程度が中度の2、3部の試合を担当する審判員には、「起こった事象に対して的確に競技規則を施行するように」と説明しています。

### 大会での審判条件

基本的には、JFA サッカー審判員3級以上  
全国・地域大会については、JFA サッカー  
審判員2級以上

### 各競技独自の審判制度・講習会

独自制度なし。都道府県サッカー協会審判委員会と連携している。

### 大会時の事前審判研修の有無

- 大会前研修：なし
- 当日研修：あり
  - 内容：知的障がい者サッカーの実態の説明や担当する試合の前の試合を観戦研修にあてている。
  - その他の対応：事前に知的障がいの説明プリント配布及びマッチコーディネーションミーティングのときに出場選手の障がい及び対応必要選手の確認をしている。

### 大会時の審判状況

- ・全国大会レベルでは開催地の都道府県サッカー協会に派遣協力依頼
- ・その他は、各地域や都道府県サッカー協会に派遣依頼を行っている。
- ・審判資格は3級以上の審判員を依頼している。

### 金田 康秀さんに聞きました！

知的障がい者サッカーの審判に取り組むようになったきっかけは？

知的障害特別支援学校に勤めるようになりました。知的障がい者サッカーがあることを知りました。2級のアクティブ審判員として活動していることもあり、知的障がい者サッカーの大会運営に審判として携わるようになりました。

審判を通して感じる知的障がい者サッカーの魅力について一言！

知的障がい者サッカーの競技規則は、健常者サッカーの競技規則と同じ「Laws of the Game」なので、いつもの審判活動と施行することは、何も変わりません。審判活動を通して感じることは、知的障がい者サッカーはものすごく純粋なサッカーなことが多いです。障がいの特性上、一度に複数のことを行うのが難しい場合が多いので、選手達はひとつのプレーに全力を注ぎます。それ故に、健常者のサッカーでは起りにくい事象が起きることが多々あります。なので、競技規則の理解と適切に施行する力が求められ、審判員としてとても勉強になります。

# 05 電動車椅子 サッカー

電動車椅子の前にフットガードを取り付けて行うサッカーです。



電動車椅子サッカーとは、電動車椅子の前にフットガードを取り付けて行うサッカーです。自立した歩行ができないなど比較的重度の障がいを持った選手が多く、ジョイスティック型のコントローラーを手や顎などで操りプレーします。性別による区分はなく、男女混合のチームで行います。国際的な呼称は「Powerchair Football」となっており、スピードは時速10km以下と定められています。直径33cmのボールを使用し、繊細な操作で繰り広げられるパスやドリブル、回転シュートなど華麗かつ迫力あるプレーが魅力です。

## ルール

【人数】4人（男女混合）

【試合時間】20分ハーフ（ハーフタイム10分間）

【ピッチサイズ】14～18m × 25～30m

（主にバスケットボールコートを使用）

【ゴール幅】6m

【ボール】直径13インチ(33cm)

【電動車椅子】最高速度10km/h以下

（※国内は最高速度6km/h以下）

【その他】サッカーと大きく異なるルールは「3in（ゴールエリアにディフェンスが3人以上入ってはいけない）」と「2on1（ボールに対して半径3m以内に各チーム1人しかプレーに関与してはいけない）」の2点があります。

## 対象者

電動車椅子を操作できる方は、どなたでもプレーできます。

※公式試合に出場するには、要障害者手帳（日本国内のみ）

【クラス分け】主に姿勢保持や視野確保、運転技能等を判断基準とし、国際大会のみPF1とPF2に区分される（「FIPFA Classification Rulebook」による）。

PF1：パフォーマンス全体に影響する相当重度な身体的障がいを持つ選手

PF2：パフォーマンス全体に影響する身体障がいは軽度から中程度ながら、適格基準を最低限満たしている選手

※ 試合中一度にコート上でプレーできるPF2選手は最大2名まで

## 国内大会

全国大会（パワーチェアーフットボールチャンピオンシップジャパン／日本電動車椅子サッカー選手権大会）





## 電動車椅子サッカーの審判

サッカーと大きく異なる二つのルール(2on1、3in)があります。

### 留意点

重度の障がいがある選手が多く、常に命に関わる危険性があり、4名の審判が協力し、プレーだけでなく障がいの特性やマシンのトラブルに最大限の配慮や集中力が必要です。タッチライン30mを走る瞬発力と、40分間ボールを予測しながら走り切る体力が必要です。

### 大会での審判条件

全国大会ではJPFA審判資格B級以上

### 各競技独自の審判制度・講習会

独自制度あり

- 頻度：年に1～2回程度
- 実施地域：都道府県単位
- 1回の受講者数：10人程度

### 大会時の事前審判研修の有無

- 大会前研修：あり（全国大会前）

→内容：競技規則の共通理解やコミュニケーションの取り方等

- 当日研修：あり

→内容：事後の振り返り（評価と課題等の整理）

### 大会等の審判状況

- ・日本電動車椅子サッカー協会の審判ライセンス保有者のみで対応している。
- ・登録者数に地域差があり、他地域から応援が必要な場合もある。
- ・今後、JFA審判員の方との相互研修等を計画したい。また、飛び級制度の新設を検討し、交流等も積極的に行っていきたい。

### 奥本 賢さんに聞きました！

電動車椅子サッカーの審判に取り組むようになったきっかけは？

教員として採用され、初任校で肢体不自由特別支援学校に赴任した際、時を同じくして大学教授が中心となり、その赴任校が母体となって愛媛に電動車椅子のサッカーチームが結成されました。チームコーチを務めていましたが、「正しいジャッジが愛媛のチーム、四国のチームを強くする」と考え、選手達の後押しもあって、1999年に名古屋にて公認審判の免許取得をしました。

### 審判を通して感じる電動車椅子サッカーの魅力について一言！

電動車椅子サッカーの選手は、自立した歩行ができないなど、いわゆる重度の障がいのある選手が多いです。その選手達が、我々の常識をはるかに超えたスピードとテクニックで電動車椅子を巧みに操作し、命懸けで相手ゴールを目指している。そんな選手達のプレーをわくわくしながらピッチの一一番近くで体感し、サポートできるのが審判です。我々の正しいジャッジが、必ずや日本代表を強くし、いずれはW杯で優勝をしてくれると思っています。また、いずれはパラリンピックの正式種目に採用され、その舞台で審判をしたいという夢を自分自身が追い続けているのも魅力の一つです。



一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス一般社団法人日本障がい者サッカー連盟内

Eメール [contact@jewfa.jp](mailto:contact@jewfa.jp) 公式WEBサイト <https://www.web-jpfa.jp/>

公式Facebook <https://www.facebook.com/pages/Japan-Powerchair-Football-Association/42515008090174?ref=nf> 公式Twitter [https://twitter.com/jpfa\\_official](https://twitter.com/jpfa_official)

公式YouTubeチャンネル [https://www.youtube.com/channel/UCg8QfVFSoOeZCKk20o\\_CTg](https://www.youtube.com/channel/UCg8QfVFSoOeZCKk20o_CTg)

応援ツイッター [http://twitter.com/#!/JPFA\\_P\\_football](http://twitter.com/#!/JPFA_P_football)

Facebook(電動車椅子サッカー応援ページ) <http://www.facebook.com/JPFA2011>

Youtube(電動車椅子サッカー応援チャンネル) <http://www.youtube.com/user/JPFA2011?feature=mhee>

# 06 ブラインドサッカー<sup>®</sup> (視覚障がい)

B1クラス(全盲)とB2/3クラス(ロービジョン)があります。

## ブラインドサッカー(全盲クラス:B1)



ブラインドサッカーは、アイマスクをつけてボールの音と声のコミュニケーションで行なう5人制サッカーです。情報の8割を得ているという視覚を閉じた状態でプレーします。ピッチはフットサルコートと同じ大きさで、両サイドライン上に高さ1mほどのフェンスが並びます。4名のフィールドプレーヤー(FP)、ゴールキーパー(GK)、監督、ガイド(案内役)の7名で行い、転がると音が出る特別なボールの使用、ガイドがゴールの後ろにいて位置を伝える、ボールを持った相手に向かって行く時に「ボイ！」と声を出す等、ルールが工夫されています。

### ルール

【人数】5人

スタッフ2人(監督1人、ガイド1人)

【試合時間】20分ハーフ(ブレーイングタイム)  
(ハーフタイム10分)

【ピッチサイズ】38~42m × 20m

【ゴールサイズ】3.66m × 2.14m

### 対象者

FPは全盲(国内大会では弱視者、晴眼者も可)

GKは弱視者または晴眼者



### 【その他】

目の見える人の協力

- GKは見える人(晴眼者または弱視者)、FP4人はアイマスクをした状態で行います。
- ゴールの後ろにガイド(案内役)がいて、ゴールの位置(距離、角度)などを伝えます。
- 「8、45、シュート！」と言っていたら、それは(距離)8m、(角度)45度、(今のタイミングで)シュート！の意味です。

### 音の出るボール



- ボールは転がすと「シャカシャカ」と音が出る特殊な構造で、ボールの音とまわりの声を頼りにしながらゴールを目指します。
- サイドラインには腰の高さのサイドフェンスがあります。
- 「ボイ(Voy)」スペイン語で「行く」
- ディフェンスは、ボールを取りに行く時自分の位置を知らせるための「ボイ！」という声を出さなければいけません。

### 国内大会

日本選手権・クラブチーム選手権



## フラインドサッカー(全盲クラス:B1)の審判

サッカーの審判と同様に、適切なポジショニングや的確な判定を心がけ、ゲームをコントロールすることが大事です。また、選手は見えていないので、起きた現象に対して会話による説明や、音によって位置を伝えるなどの工夫が必要です。

### 留意点

選手達はアイマスクをつけ見えない状況でプレーするため、ボールの音や会話によるコミュニケーションが必要となります。

### 大会での審判条件

JBFA審判資格者(割り当ては過去のブラインドサッカー審判経験から判断)

### 各競技独自の審判制度・講習会

独自制度あり

- 頻度：6回(2021年4月～2022年3月)
- 実施地域：東京、神奈川、広島、静岡、千葉
- 実施方法：オンライン講習と実地講習の併用
- 1回の受講者数：2～20人

### 大会時の事前審判研修の有無

■大会前研修：あり

→内容：アクティブラフリー講習会や審判資格講習会を年数回開催し、最近の事象を参考に、プラクティカルトレーニング、ビデオ研修、競技規則テストを実施

■当日研修：あり

→内容：審判インストラクターを派遣し、試合前の打ち合わせ、試合後のフィードバック、試合後2日以内にアセスメントレポートの送付

### 大会等の審判状況

- ・日本ブラインドサッカー協会の審判ライセンス保有者で対応
- ・人数としては大きくは不足していないが、資格保有者が首都圏在住者に集中しているため、首都圏以外在住者の審判員増加を目指しています。

### ト部 靖さんに聞きました!

ブラインドサッカーの審判に取り組むようになったきっかけは?

2013年東京国体の際に現在日本ブラインドサッカー協会で審判部長をされている方から声を掛けてもらい、2014年のブラサカ世界選手権(東京)を観戦しました。自分の目で実際に競技を確かめて、自分にもできると感じ、翌年の2015年に審判資格を取得。日本ブラインドサッカー協会の審判員として活動を開始しました。実は、私の家内も身体障がいの認定を受けており、皆様の介護が必要です。その恩返しも兼ねて、この競技のレフェリーを始めました。.

審判を通して感じるブラインドサッカーの魅力について一言！

障がい者と健常者が混ざり合い、チーム全員が一体となって得点を取り勝利を目指す姿が、サッカー大好きの私にとっては一番の魅力です。皆さんのが楽しんで観戦し、笑顔で競技を応援してくれるよう、競技の面白さや感動をどのように伝えるかを海外の試合を分析するなど常に研究し、ゲームコントロールを心掛けてレフェリーをしています。その研究結果が、この度の東京パラリンピックの自分のジャッジのパフォーマンスで表現できたと思います。

## ロービジョンフットサル(弱視クラスB2/3)



©JBFA/H.Wanibe

ロービジョンフットサルは、弱視者が弱視状態のまま、フットサルとほぼ変わらないルールでプレーします。4名のフィールドプレーヤー(FP)、ゴールキーパー(GK)の5人で行い、フィールドプレーヤー4人のうち最低2名はより見えにくいB2クラスの選手がいなければなりません。B3クラスの選手は腕章を装着します。アイマスクは装着せず、ボールも音が出

ない通常のフットサルボールを用います。一般的に「目が悪い」というと視力が弱い状態を想像しますが、見えにくさがそれぞれ異なり、ぼやけ、欠け、にごりなどの症状があり、さらにそれらが掛け合わされて多様な見えにくさがある状態でプレーをします。

### ルール

【人数】5名

【試合時間】20分ハーフ(ブレイングタイム)  
(ハーフタイム10分)

【ピッチサイズ】40m×20m

【ゴールサイズ】3m×2m

### 【クラス分け】

B2:矯正後の診断で、視力0.03まで、ないし、視野5度まで

B3:矯正後の診断で、視力0.1まで、ないし、視野20度まで

※B2のプレーヤーが2人以上

※ピッチ上B3のプレーヤーは右腕に赤いバンド装着

### 対象者

FPは弱視者

(国内大会では大会により晴眼者も可)

GKは弱視者または晴眼者

### 国内大会

日本選手権



通常の見え方



ぼやけた見え方



視野が欠けた見え方



黄色くにごった見え方



特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27 ペアーズビル3F

Eメール [info@b-soccer.jp](mailto:info@b-soccer.jp)

公式WEBサイト <https://www.b-soccer.jp>

公式Facebook <https://www.facebook.com/Blind.Football>

公式ツイッター [https://twitter.com/jbfa\\_b\\_soccer](https://twitter.com/jbfa_b_soccer)

公式Instagram [https://www.instagram.com/b.soccer\\_official/](https://www.instagram.com/b.soccer_official/)

Youtube 公式チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCzfernHfCRGIOpYlhdtYFSA/featured>



## ロービジョンフットサル(弱視クラスB2/3)の審判

選手らは、異なる見えにくさの状況でプレーするため、必要に応じて会話によるコミュニケーションが必要となります。

### 留意点

サッカーの審判と同様に、適切なポジショニングや的確な判定を心がけゲームをコントロールすることが大事となります。また、選手によって異なる見えにくさがあるので、場合により会話による説明を多くするなど工夫が必要となります。

### 大会での審判条件

JBFA 審判資格者（割り当ては過去のロービジョンフットサル審判経験から判断）

### 各競技独自の審判制度・講習会

独自制度あり

- 頻度：6回（2021年4月～2022年3月）
- 実施地域：東京、神奈川、広島、静岡、千葉
- 実施方法：オンライン講習と実地講習の併用
- 1回の受講者数：2～20人

### 大会時の事前審判研修の有無

■大会前研修：あり

→ 内容：アクティブラフリー講習会や審判資格講習会を年数回開催し、最近の事象を参考に、プラクティカルトレーニング、ビデオ研修、競技規則テストを実施

■当日研修：あり

→ 内容：審判インストラクターを派遣し、試合前の打ち合わせ、試合後のフィードバック、試合後2日以内にアセスメントレポートの送付

### 大会等の審判状況

- ・日本ブラインドサッカー協会の審判ライセンス保有者で対応
- ・人数としては大きくは不足していないが、資格保有者が首都圏在住者に集中しているため、首都圏以外在住者の審判員増加を目指しています。

### 松田 統さんに聞きました！

ロービジョンフットサルの審判に取り組むようになったきっかけは？

視覚障がい者サッカー競技の審判資格は、2013年に友人から「パラに行こうよ。」と誘われて、深く考えずに取得しました。当時はロービジョンフットサル（以下、LVF）の存在を全く知りませんでした。資格取得後初めて審判を務めたのはLVFの大会で、それは、ほぼフットサルと同じで若干の差違は有りましたがすんなり溶け込み、今では数少ない大会で審判活動を楽しんでいます。

審判を通して感じるロービジョンフットサルの魅力について一言！

視覚障がい者はその程度によってクラス分けされています。その程度は様々で、見え方もそれぞれ違います。そんな彼等を纏めコントロールすることは至難の業ですが、彼等の踏ん張り、競技への想い、それを支える家族、スタッフの皆さまを観ていると、LVFに携わる皆さまが、障がいの有無に関わらず、生きがいを持って生きることに少しでも協力し、大会関係者を含めてすべての皆さまが楽しめるように、競技規則の精神を遵守し、ゲームコントロールに努めようと思います。サッカー環境は人それぞれ違いますので、多くのパフォーマンスが生まれるように、環境整備も大事かと思いますので、どうかご協力をお願いいたします。

# 07 ろう者(デフ)サッカー (聴覚障がい)

ろう者(デフ)サッカー、ろう者(デフ)フットサルがあります。

## デフサッカー

「デフ」とは英語で「deaf (聞こえない人、聞こえにくい人)」という意味で、デフサッカーとは、聴覚障がい者のサッカーであり、競技中は補聴器を外すことが義務付けられていることから「音のないサッカー」の愛称で呼ばれています。ピッチ上ではアイコンタクトや手話でコミュニケーションを取っています。

### ルール

通常のサッカーと同じ

【人数】11人

【試合時間】45分ハーフ(ハーフタイム15分)

【ピッチサイズ】フルピッチ

【その他】主審は笛とフラッグ両方使用  
(笛の音が聞こえないため)

### 対象者

聴覚障がい者

※ただし、日本と国際ルールで基準が異なります。日本は最も軽い6級で両耳の聴力レベルが70dB以上、一側耳の聴力レベルが90dB以上、他側耳の聴力レベルが50dB以上と定められています。一方、国際ろう者スポーツ委員会は聞こえが良い方の耳の聴力が55dB以上とされています。

【クラス分け】なし

【その他】競技中は補聴器を外すことが義務付けられている

### 国内大会

全国ろうあ者体育大会(サッカー)・全日本ろう者サッカー選手権大会

全日本ろう者フットサル選手権大会

## デフフットサル

デフフットサルとは、聴覚障がい者のフットサルです。



### ルール

【人数】5人

【試合時間】25分ランニングタイムもしくは20分プレーイングタイム

【ピッチサイズ】フットサルピッチ

【その他】主審は笛とフラッグ両方使用  
(笛の音が聞こえないため)



## ろう者(デフ)サッカーの審判

基本的にサッカーとルールは変わりません。

1点だけ主審は笛とフラッグ両方使用します(笛の音が聞こえないため)。

国際試合ではさらに両ゴール裏に1人ずつ。合計5人のフラッグを持った審判員が、プレーの停止を多方向から伝えます。

### 留意点

サッカーと同じ大きさのフィールドをカバーできる体力が必要。また安全でスムーズな運営のため、審判員間の打ち合わせが重要です。また、旗のシグナルはタイミングよく示し、判定後プレーが続く場合はプレーヤーの視野に入ることも必要となります。

### 大会での審判条件

JFA 審判員3級以上

### 各競技独自の審判制度・講習会

独自制度なし

### 大会時の事前審判研修の有無

■大会前研修：なし

■当日研修：あり

→内容：デフ対応用の説明をする(旗の使い方の説明など)

### 大会等の審判状況

全国大会レベルでは都道府県サッカー協会に派遣協力依頼をしている。

### 山内 宏志さんに聞きました!

(サッカー国際副審)

ろう者(デフ)サッカーの審判に取り組むようになったきっかけは?

教員として専門学校の授業を担当していた時に、聴覚障がいを持つ学生と出会い、審判資格の取得や大会運営について相談を受けたのがきっかけです。それから毎年、東日本ろう者サッカー協会主催大会「デフリーグ」に参加するようになりました。審判講習会も行うことができました。

審判を通して感じるろう者(デフ)サッカーの魅力について一言!

それは間違いなく「コミュニケーション」だと思います。手話や読唇はもちろんですが、アイコンタクトによるスムーズな連係は審判員としても魅了されます。また、危険を察知する力による「リスクマネジメント」なども特長として挙げられます。そして、ピッチ上だけでなくオフザピッチでも大切にされる「心遣い」とデフサッカーが育む「温かいコミュニティー」がその魅力をより強いものにしている思います。

※2018年からは日本ろう者サッカー協会主催  
2020年、2021年はコロナ禍の影響で開催なし



一般社団法人日本ろう者サッカー協会

〒899-2154 宮崎県宮崎市学園木花台桜1丁目8番地3-A101

Eメール [jdfa@jdfa.jp](mailto:jdfa@jdfa.jp) 公式WEBサイト <https://jdfa.jp>

公式Facebook <https://www.facebook.com/jdfa.soccer>

公式Twitter [https://twitter.com/jdfa\\_official](https://twitter.com/jdfa_official)

公式Instagram [https://www.instagram.com/jdfa\\_official/](https://www.instagram.com/jdfa_official/)

# 日本障がい者サッカー連盟

JFAと障がい者サッカー団体をつなぐ、中間支援組織です。

サッカーなら、どんな障害も越えられる。

日本障がい者サッカー連盟 (JIFF) は7つの障がい者サッカー団体の集合体です。日本サッカー協会 (JFA) の加盟団体であり、JFAと協働し、7つの障がい者サッカー団体の活動をサポートする中間支援組織です。



## 理念

広くサッカーを通じて、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、一人ひとりの個性が尊重される活力ある共生社会の創造に貢献する。

## ビジョン

**【普及】** 障がい者サッカーの普及に努め、社会に根付いたものとなることで、誰でも、いつでも、どこでもスポーツを楽しめる環境を創りあげる。

**【強化】** 障がい者サッカーの強化に努め、日本代表が世界で躍進することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

**【組織】** 健全な組織の構築に努め、社会的責任を果たしていくことで、障がい者サッカーの価値を向上する。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス内

TEL 03-3818-2030 FAX 03-6684-4034 Eメール [jiff\\_info@jfa.or.jp](mailto:jiff_info@jfa.or.jp)

公式WEBサイト <https://www.jiff.football>

## 日本障がい者サッカー連盟（JIFF）の活動内容

活動内容	
<b>01</b> 相談窓口	障がい者サッカーに関する相談専用窓口 TEL: 03-3818-2031(平日 11時～16時)
<b>02</b> 障がい者サッカー共同事務局を設置／オフィス提供および人的支援	組織基盤が脆弱で専用のオフィスを持たない障がい者サッカー競技団体へ、オフィス提供および人的支援を実施しています。また、問い合わせの一次窓口や情報集約・整理等を行い、障がい者サッカー全体の組織基盤強化と普及をサポートしています。
<b>03</b> 7つの障がい者サッカーの情報発信	7つの障がい者サッカー情報をまとめ、障がい者サッカー全体の情報を発信しています。全国のクラブチーム検索機能を備えるほか、JFAと連携し障がいに関するハンドブックも制作しています。
<b>04</b> インクルーシブフットボールフェスタによる全国的なインクルーシブな場づくり	障がい者と健常者がまざこぜでサッカーを楽しむイベントを開催しています。都道府県サッカー協会、地元のJリーグ、Fリーグ、WE・などしごリーグクラブ、障がい者サッカーチームの協力を得ての取り組みを全国へ展開しています。
<b>05</b> 障がい者サッカー指導者の養成／指導者登録制度の運用	JFA有資格指導者への障がい者サッカーリキュラム受講を推進しています。JIFF指導者登録制度を運用し、障がい者サッカーへの橋渡しを行っています。また、バルサ財団(スペイン)と連携し講習会を実施し、場づくりのキーマンとなる指導者を養成しています。
<b>06</b> 9地域障がい者サッカー連携会議による障がい者サッカーネットワーク構築	2019年からスポーツ庁より事業を受託し、全国を9地域に分け、連携会議を実施しています。JIFF、JFA、7つの障がい者サッカーのほか、都道府県サッカー協会、全国のJリーグクラブ、地域の障がい者サッカーチームが参加し、ネットワークづくりに取り組んでいます。
<b>07</b> 企業・教育機関向けの教育事業の推進	障がい者サッカーで培われる強みを活かし、小・中学生向けに、障がい理解や、思いやりを学ぶインクルーシブ教育プログラムを実施しています。企業向けには、コミュニケーションやビルディング研修等を実施しています。

## その他情報

### 手話通訳費用補助制度

<https://www.jiff.football/about/shuwa/>

JFAおよび47都道府県サッカー協会主催の講習会やセミナーに聴覚障がい者参加する場合、JIFFから主催者側に手話通訳費用を補助する制度です。

### 障がい者のスポーツ参画を応援しよう！

サッカー指導者・審判員を目指す聴覚障がい者のためにそのための寄附を募っています。

<https://donation.yahoo.co.jp/detail/5176001/>



**発 行**

公益財団法人日本サッカー協会

**編 集**

公益財団法人日本サッカー協会 47FA 普及推進部

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

**編集協力・写真提供**

特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会

一般社団法人日本CPサッカー協会

特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会

特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟

一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会

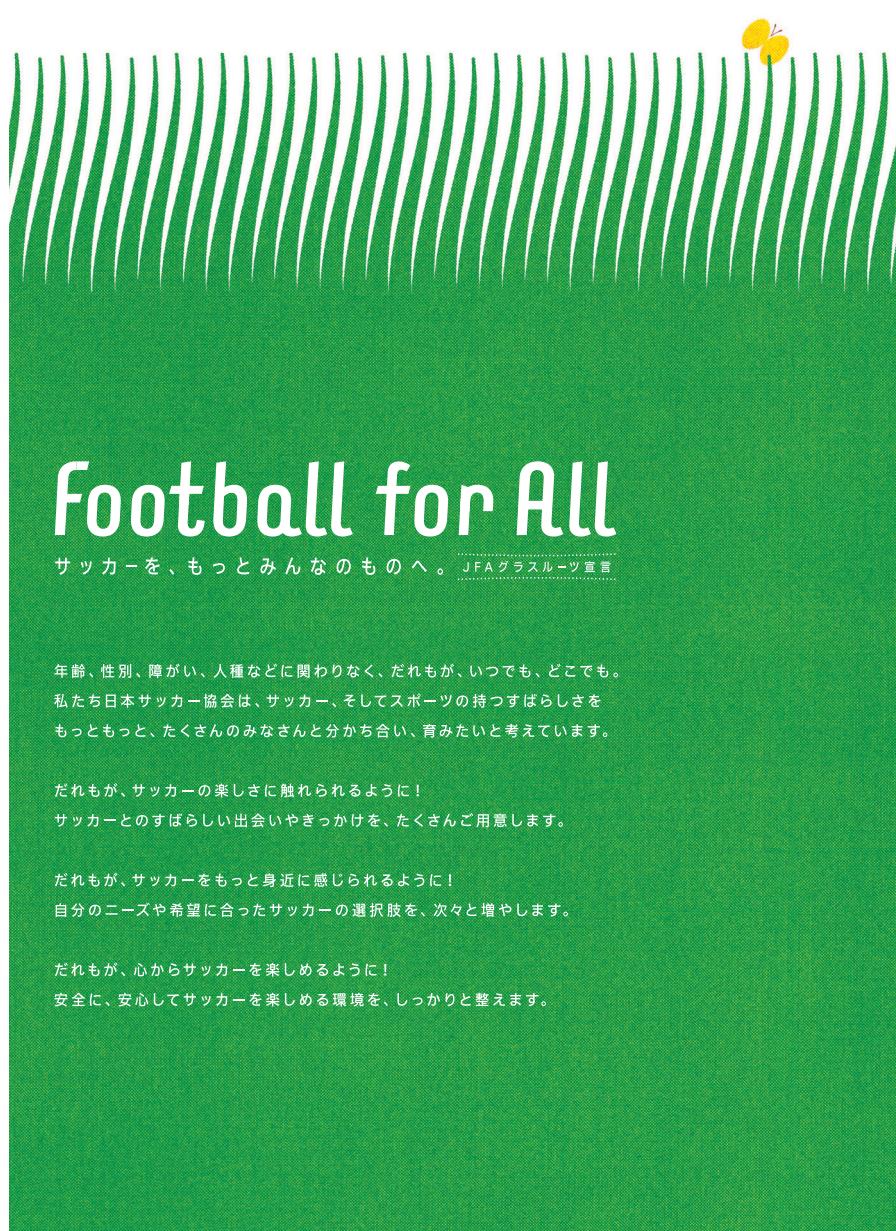
特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会

一般社団法人日本ろう者サッカー協会

● 本紙掲載のレポート、写真、図表等の無断転載を禁じます。

● 発行日：2022年9月

※掲載しているデータは2022年現在のものです。



# Football for All

サッカーを、もっとみんなのものへ。 JFAグラスルーツ宣言

年齢、性別、障がい、人種などに関わりなく、だれもが、いつでも、どこでも。  
私たち日本サッカー協会は、サッカー、そしてスポーツの持つすばらしさを  
もっともっと、たくさんのみなさんと分かち合い、育みたいと考えています。

だれもが、サッカーの楽しさに触れられるように！  
サッカーとのすばらしい出会いやきっかけを、たくさんご用意します。

だれもが、サッカーをもっと身近に感じられるように！  
自分のニーズや希望に合ったサッカーの選択肢を、次々と増やします。

だれもが、心からサッカーを楽しめるように！  
安全に、安心してサッカーを楽しめる環境を、しっかりと整えます。

「JFA グラスルーツ宣言」2014年5月15日



電動車椅子サッカー



アンプティサッカー



フライントサッカー



CP サッカー



ろう者(デフ)  
サッカー



ソーシャル  
フットボール



障がい者サッカー HAND BOOK  
 審判編



知的障がい者  
サッカー



公益財団法人日本サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス内  
TEL 03-3818-2030 <https://www.jfa.jp/>

日本障がい者サッカー連盟

〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス内  
TEL 03-3818-2030 <https://www.jiff.football>